

**平成30年度**  
**事務事業別決算成果報告書**

**(下水道部関係)**



平成30年度事務事業シート(評価)目次


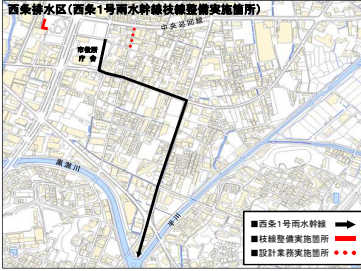
大綱	目標	施策	事務事業番号	事務事業名	所属名	掲載ページ	簡易版
第2節	安全で安心な暮らしを地域で支えあうまち ー安心づくりー						
	③災害や犯罪などのリスクに強い安全なまち						
	2-8 自然災害に強いまちづくりの推進						
			208 16	公共下水道事業(雨水)	下水道管理課・下水道建設課・下水道施設課	.....	1
第3節	環境と調和した生活しやすいまち ー快適づくりー						
	①魅力ある住環境の整ったまち						
	3-5 快適な市民生活を支える汚水処理の推進						
		305	3	公共下水道事業(汚水)	下水道管理課・下水道建設課・下水道施設課	.....	3
		305	4	特定環境保全公共下水道事業	下水道管理課・下水道施設課	.....	5
		305	5	農業集落排水事業	下水道管理課・下水道施設課	.....	7
		305	6	産業団地汚水処理施設事業	下水道管理課・下水道施設課	.....	9 簡易

平成 30 年度 事務事業シート ( 評価 )

1 事務事業に関する基本情報

事務事業番号	208 - 16	新規・継続	継続
事務事業名	公共下水道事業(雨水)	下水道事業会計	混在
所 属	下水道部 下水道管理課 下水道建設課 下水道施設課	総合計画施策体系	2 - 8
根拠法令	都市計画法、下水道法、東広島市公共下水道条例		

2 事務事業の概要・活動実績

目的 (何のために)	市街地において、豪雨時の道路の冠水や排水路の溢水による浸水被害から市民の生命、身体及び財産を守るため、浸水対策施設を整備し、自然災害に強いまちづくりを推進する。
対 象 (誰・何を対象に)	西条排水区、寺家排水区及び蛇道川排水区において内水浸水被害を被る住民等
事業の概要 及び H30活動実績	<p>1 計画的、効率的な施設の建設と更新</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>雨水排水施設を計画的、効率的に管理するため、ストックマネジメント計画の策定を進める。</li> </ul> <p>【資本的支出 2,901千円】</p> <p>(1) スtockマネジメント計画策定基礎調査(雨水排水施設)(2,901千円)</p> <p>2 災害に強い下水道の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>浸水対策施設の機能を維持するため、適正な維持管理を行う。</li> <li>寺家排水区(西条第二地区)の雨水管渠詳細設計業務及び寺家8号雨水幹線の整備に着手並びに西条排水区の雨水管渠詳細設計業務及び雨水管渠建設工事を行った。</li> </ul> <p>【収益的支出 20,874千円】</p> <p>(1) 管渠・ポンプ場管理(20,874千円)</p> <p>【資本的支出 56,207千円】</p> <p>(1) 雨水管渠詳細設計業務(西条排水区、西条第二地区)(9,618千円)</p> <p>(2) 雨水管渠建設工事(西条排水区)(9,132千円)</p> <p>(3) 雨水幹線建設工事負担金(西条第二地区)(37,457千円)</p> <p>平成30年7月豪雨災害の影響に伴う受注者における労務者の手配や工事区域隣接土地所有者と迂回路設置に係る調整に不測の日数を要し、一部事業を繰越した。</p>
	 

3 コスト情報

	平成28年度(決算)	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)
収益的収入	182,090千円	260,650千円	295,125千円	276,252千円
収益的支出(A)	281,183千円	261,457千円	297,318千円	276,252千円
差引	△ 99,093千円	△ 807千円	△ 2,193千円	0千円
当年度純利益(又は純損失)	△ 27,395千円	△ 747千円	△ 2,031千円	1,990千円
資本的収入	31,057千円	9,832千円	62,909千円	184,688千円
資本的支出(B)	108,655千円	121,549千円	154,039千円	291,656千円
差引	△ 77,598千円	△ 111,717千円	△ 91,130千円	△ 106,968千円
うち人件費合計	1.00人	1.00人	3.00人	-人
人件内訳				
正規職員	1.00人	1.00人	3.00人	-人
嘱託職員	-人	-人	-人	-人
臨時職員	0.00人	0.00人	0.00人	-人
総事業費(A)+(B)	389,838千円	383,006千円	451,357千円	-千円
人件費/総事業費	2.23%	2.26%	5.21%	-%
H30年度予算のうちR1年度に繰越した事業費	【委託料】西条第二地区雨水・汚水管渠詳細設計業務(雨東30-1)ほか1件 31,469,000円			
	【工事請負費】寺家8号雨水幹線建設工事(雨東30-1) 55,000,000円			
	【工事負担金】西条中央迂回線(寺家工区)に係る下水道工事 37,543,000円			

4 指標

活動・結果指標	【活動・結果指標名】	単位	事務事業番号 208 - 16 事務事業名 公共下水道事業(雨水)						
			28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)				
	整備延長累計(西条・寺家排水区)	m	1,210	1,210	1,276				
単当たりコスト (人件費を含む事業費/対象・活動指標)									
成果目標 (指標設定理由、計算式、数値上では現れにくい成果)	雨水浸水対策事業は、雨水排水管等の対策施設の完成・供用によって事業効果が得られるため、事業を実施する西条及び寺家排水区の管渠等の整備率(整備延長累計/全体計画延長)を指標とする。また、施設整備を行っている西条排水区においては、直接的な整備効果指標である床上浸水被害戸数を指標に加える。								
成果指標 (目標達成状況等)	【成果指標名】	単位	28年度(実績値)	29年度(実績値)	30年度(実績値)	達成率	元年度(目標値)	一年度(目標値)	
	整備率(延長ベース)(西条・寺家排水区)	%	27	27	30	29	96.7%	32	-
	床上浸水被害戸数(西条排水区)	戸	0	0	0	5	0.0%	0	-

5 事務事業の評価

評価分析	西条第二地区の雨水管渠詳細設計業務(管渠延長8,258m)に着手したが、施設管理者等の協議に不測の日数を要し、繰越した。また、寺家8号雨水幹線の整備(施工延長50m)に着手したが、工事区域隣接土地所有者と迂回路設置に係る調整に不測の日数を要し、繰越した。西条排水区の雨水管渠詳細設計業務(管渠延長85m)及び雨水管渠建設工事(施工延長66m)が完了した。				
総合評価	C	西条第二地区の寺家8号雨水幹線建設工事及び雨水管渠詳細設計業務とも繰越となり、目標を下回っているが、令和元年度も継続して寺家8号雨水幹線の整備を行うこととしている。	成果の達成度	A 目標以上	
				B 概ね目標達成	
				C 目標をやや下回る	○
				D 目標を大幅に下回る	
				E 成果上がらず	
			区分	削減	同じ
				コスト投入状況	

区分	評価項目	評価	判断理由・評価コメント
必要性	市の関与の妥当性	市が実施すべきである。	公共下水道(雨水)事業は、市が実施すべきである。
	市民ニーズの傾向	増加傾向にある。	市街化の進展と相まって近年の集中豪雨に伴い、浸水対策に対する市民ニーズは高い。
有効性	類似事業の有無	一部、類似した事務事業がある。	河川・水路改修事業による雨水排水路の改修事業がある。
	単当たりコストの妥当性	比較資料がない。	特になし。
効率性	コスト削減の余地	一部、削減の余地がある。	コスト削減を図った設計、施工を実施している。
	負担割合の適正度	概ね適正な負担割合である。	公共下水道による雨水の排除経費は、公費原則に則している。
	民間活力の活用	概ね、民間委託等へ切替済	雨水施設の維持管理については、民間委託等を行っている。
施策への貢献度	今後も最も重要であり、高い貢献度を持つと判断される。	浸水対策事業は、市民の生命・身体及び財産を守るための重要な事業であり、市民満足度調査からもニーズ度が高い。	

6 課題及び今後の方向性

課題	近年、局地的な大雨の増加や都市化の進展に伴う雨水流出量の増大に対応する浸水被害対策は、施設整備等によるハード対策だけでは限界があることから、住民による自助や公助・共助によるソフト対策の導入が必要である。また、限られた財源の中で効率的かつ効果的な事業執行が必要である。平成30年度は7月豪雨災害の復旧支援のため、雨水管渠の整備について、翌年度への繰越額が多くなり進捗が遅れが生じている。
今後の方向性	緊急かつ効率的な浸水被害の解消・軽減に向けて、平成30年7月豪雨災害による雨水管渠整備の遅れを早期に取戻し、下水道による浸水対策を実施すべき区域や目標とする整備水準、施設整備の方針等の基本的事項を定めた「雨水管理総合計画」に基づき、事業を執行する。また、事業を計画的に実施していくため国及び県に対して補助金の確実な確保を要望していく。

平成 30 年度 事務事業シート ( 評価 )

1 事務事業に関する基本情報		事務事業番号	305 - 3	新規・継続	継続
事務事業名	公共下水道事業(汚水)	下水道事業会計			混在
所 属	下水道管理課・下水道建設課・下水道施設課			総合計画施策体系	3 - 5
根拠法令	都市計画法、下水道法、東広島市公共下水道条例、東広島市水洗便所改造資金貸付条例 東広島市公共下水道事業受益者負担金等に関する条例、東広島市公共下水道区域外流入分担金に関する条例				

2 事務事業の概要・活動実績

目的 (何のために)	生活環境の向上と河川や海域等の公共用水域の水質保全のため、市街地における生活排水等の汚水処理施設を整備し、衛生的で快適な生活環境を形成する。									
対象 (誰・何を対象に)	公共下水道事業計画区域内の住民等 東広島処理区、黒瀬処理区、安芸津処理区、沼田川処理区(入野処理分区分を除く)									
事業の概要 及び H30活動実績	<p>1 下水道経営の健全化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>下水道事業経営戦略により計画的な経営基盤の強化と財政マネジメントの向上を図る。</li> </ul> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">経営分析指標</th> <th>30年度(決算)</th> </tr> <tr> <td>経常収支比率</td> <td>= (経常収益 / 経常費用) × 100</td> <td>102.4%</td> </tr> <tr> <td>経費回収率</td> <td>= (下水道使用料 / 汚水処理費(公費負担分を除く)) × 100</td> <td>100.0%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>処理場、ポンプ場等の適正な運転・維持管理を行うとともに、維持管理費の抑制を図る。</li> <li>使用料等の効率的な賦課徴収事務と早期の滞納整理により、収納率の向上を図る。</li> <li>排水設備工事に係る事務を行うとともに、下水道の普及促進を図る。</li> </ul> <p>【収益的支出 988,889千円】</p> <p>(1) 処理場管理(812,459千円)</p> <p>(2) 管渠・ポンプ場管理(100,154千円)</p> <p>(3) 使用料徴収事務委託(76,276千円)</p> <p>【資本的支出 9,050千円】</p> <p>(1) 水洗便所改造資金貸付金(9,050千円)</p>	経営分析指標		30年度(決算)	経常収支比率	= (経常収益 / 経常費用) × 100	102.4%	経費回収率	= (下水道使用料 / 汚水処理費(公費負担分を除く)) × 100	100.0%
	経営分析指標		30年度(決算)							
経常収支比率	= (経常収益 / 経常費用) × 100	102.4%								
経費回収率	= (下水道使用料 / 汚水処理費(公費負担分を除く)) × 100	100.0%								
<p>2 計画的、効率的な施設の建設と更新</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>下水道施設を計画的、効率的に管理するため、ストックマネジメント計画の策定を進める。</li> <li>下水道未普及解消整備計画に基づき、汚水管渠等の整備を促進する。</li> <li>処理場施設を計画的に建設するとともに、長寿命化計画に基づき老朽化施設の改築を行う。</li> </ul> <p>【資本的支出 1,222,011千円】</p> <p>(1) スtockマネジメント計画策定基礎調査(下水道施設)(18,552千円)</p> <p>(2) 汚水管渠基本・実施設計業務(八本松東・西条第二・乃美尾・三津地区)(55,832千円)</p> <p>(3) 汚水管渠建設・ポンプ設備設置工事(873,821千円)</p> <p>(4) 工事負担金(寺家・楢原地区)(38,022千円)</p> <p>(5) 長寿命化対策(東広島浄化センター受電設備等改築工事委託ほか)(178,784千円)</p> <p>(6) 東広島浄化センター11・12池増設設計業務(57,000千円)</p>										
<p>3 災害に強い下水道の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現行の耐震基準に適合していない既存の下水道施設の耐震化を図る。</li> </ul> <p>【資本的支出 8,772千円】</p> <p>(1) 下水道総合地震対策管渠等基礎調査及び実施計画策定(8,772千円)</p> <p>(2) 耐震化対策(処理場耐震補強工事委託(東広島・黒瀬))(0千円)</p>										

3 コスト情報

	平成28年度(決算)	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)
収益的収入	4,028,594 千円	4,056,769 千円	4,042,334 千円	4,225,119 千円
収益的支出(A)	4,143,075 千円	3,949,667 千円	3,874,880 千円	3,932,776 千円
差引	△ 114,481 千円	107,102 千円	167,454 千円	292,343 千円
当年歳納利益(又は納損失)	△ 264,737 千円	5,200 千円	93,489 千円	134,786 千円
資本的収入	1,487,639 千円	2,132,201 千円	1,551,852 千円	2,177,035 千円
資本的支出(B)	2,840,545 千円	3,501,640 千円	2,927,851 千円	3,617,316 千円
差引	△ 1,352,906 千円	△ 1,369,439 千円	△ 1,375,999 千円	△ 1,440,281 千円
人件費合計	43.00 人	43.00 人	42.00 人	- 人
うち 人 員 内 正 規 職 員	40.00 人	40.00 人	38.00 人	- 人
嘱託職員	3.00 人	3.00 人	4.00 人	- 人
総事業費(A)+(B)	6,983,620 千円	7,451,307 千円	6,802,731 千円	- 千円
人件費/総事業費	5.48 %	4.97 %	5.39 %	- %
H30年度予算のうち R1年度に繰越した 事業費	【委託料】東広島浄化センターの建設工事委託に関する協定(長寿命化)ほか12件			669,711,000 円
	【工事請負費】白市地区汚水管渠建設工事(白30-2)ほか12件			750,274,000 円
	【工事負担金ほか】楢原地区工事負担金ほか6件			41,990,000 円

4 指標

		事務事業番号	305 - 3	事務事業名	公共下水道事業(汚水)			
活動・結果 指標	【活動・結果指標名】	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)			
	新規供用開始面積	ha	59	50	34			
単位当たりコスト (人件費を含む事業費/ 対象・活動指標)	使用料単価(※H28類型平均134.69 (使用料収入/年間有収水量))	円/m3	194.07	193.98	194.11			
	汚水処理原価(維持管理費)/ (汚水処理費(維持管理費)/年間有収水量)	円/m3	85.69	90.49	87.32			
成果目標 (指標設定理由、 計算式、 数値上では現れ にくい成果)	事務事業の目的の直接的な成果指標である公共下水道人口普及率(処理区域内人口/行政区域内人口)を指標とする。							
成果指標 (目標達成状況等)	【成果指標名】	単位	28年度 (実績値)	29年度 (実績値)	30年度 (実績値)	元年度 (目標値)	3年度 (目標値)	
	公共下水道人口普及率 (特定環境保全公共下水道を含む)	%	44.3	45.1	45.6	45.8	100.4%	47.4

5 事務事業の評価

評価分析	下水道未普及解消整備計画に基づき投資効果の高い地域を整備したことにより、公共下水道人口普及率の目標値を0.2ポイント上回った。				
総合評価	A	投資効果の高い地域を集中的に整備し、成果目標である公共下水道人口普及率を0.2ポイント上回った。また、経常収支比率及び経費回収率については、大口使用者(企業)の影響や普及率の向上によりいずれも100%を超えている。	成果の達成度	A 目標以上	○
			区分	B 概ね目標達成	
			C 目標をやや下回る		
			D 目標を大幅に下回る		
			E 成果が上がらず		
			削減	同じ	増額
			コスト投入状況		

区分	評価項目	評価	判断理由・評価コメント
必要性	市の関与の妥当性	市が実施すべきである。	公共下水道(汚水)事業は、市が実施すべき事業である。
	市民ニーズの傾向	増加傾向にある。	公共下水道未普及地域において早期整備に対する市民ニーズは高い。
有効性	類似事業の有無	類似した事務事業がある。	東広島市汚水適正処理構想に基づき事業を実施している。
	単位当たりコストの妥当性	概ね妥当である。	経営分析における類型平均と比較して概ね妥当である。
効率性	コスト削減の余地	一部、削減の余地がある。	汚水処理施設の維持管理費の削減に努める必要がある。
	負担割合の適正度	概ね適正な負担割合である。	経営分析における類型平均と比較して使用料単価は概ね適正である。
施策への貢献度	民間活力の活用	概ね、民間委託等へ切替済	汚水処理施設の維持管理等については、民間委託している。
		今後最も重要であり、高い貢献度を持つと判断される。	公共下水道事業は、市民生活環境の改善、公共用水域の水質保全を図るために不可欠な都市施設であり、市民満足度調査からもニーズ度が高い。

6 課題及び今後の方向性

課題	国の社会資本整備総合交付金の交付額が要望額を下回る状況にあるため、事業の推進に影響を及ぼすことが懸念される。また、将来にわたって下水道サービスを持続的・安定的に提供していくため、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上を図る必要がある。 平成30年度は7月豪雨災害の復旧支援のため、汚水管渠の整備について、翌年度への繰越額が多くなり進捗が遅れが生じている。
今後の方向性	事業を確実に実施していくため、国庫補助金の確保に向けて国及び県に対して強く要望していく。また、本市の下水道処理人口普及率は、国や広島県などと比較し、依然低い状況にあり、今後より一層下水道未普及地域の整備を促進する必要がある。このため、平成30年7月豪雨災害による汚水管渠整備の遅れを早期に取戻し、今後到来する下水道施設の老朽化対策等を見据え、東広島市下水道事業経営戦略及び東広島市下水道未普及解消整備計画に基づき事業を推進していく。

平成 30 年度 事務事業シート ( 評価 )

1 事務事業に関する基本情報		事務事業番号	305 - 4	新規・継続	継続
事務事業名	特定環境保全公共下水道事業	下水道事業会計	混在		
所 属	下水道管理課・下水道施設課	総合計画施策体系	3 - 5		
根拠法令	都市計画法、下水道法、東広島市公共下水道条例、東広島市水洗便所改造資金貸付条例、東広島市公共下水道事業受益者負担金等に関する条例、東広島市公共下水道区域外流入分担金に関する条例				

2 事務事業の概要・活動実績

目的 (何のために)	市街化区域以外の区域における生活排水を処理し、河川等の公共用水域の水質保全及び生活環境の改善を図る。									
対象 (誰・何を対象に)	特定環境保全公共下水道事業計画区域内の住民等 福富処理区、豊栄処理区、沼田川処理区(入野処理分区)									
事業の概要 及び H30活動実績	<p>1 下水道経営の健全化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>下水道事業経営戦略により計画的な経営基盤の強化と財政マネジメントの向上を図る。</li> </ul> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">経営分析指標</th> <th>30年度(決算)</th> </tr> <tr> <td>経常収支比率</td> <td>＝(経常収益/経常費用)×100</td> <td>98.5%</td> </tr> <tr> <td>経費回収率</td> <td>＝(下水道使用料/汚水処理費(公費負担分を除く))×100</td> <td>36.0%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>処理場、マンホールポンプ等の適正な運転・維持管理を行うとともに、維持管理費の抑制を図る。</li> <li>使用料等の効率的な賦課徴収事務と早期の滞納整理により、収納率の向上を図る。</li> </ul> <p>【収益的収支 71,409千円】</p> <p>(1) 処理場管理(59,749千円)</p> <p>(2) 管渠・ポンプ場管理(10,055千円)</p> <p>(3) 使用料徴収事務委託(1,605千円)</p> <p>2 計画的、効率的な施設の建設と更新</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>下水道施設を計画的、効率的に管理するため、ストックマネジメント計画の策定を進める。</li> <li>処理場施設を計画的に建設するとともに、長寿命化計画に基づき老朽化施設の改築を行う。</li> </ul> <p>【資本的支出 21,850千円】</p> <p>(1) スtockマネジメント計画策定基礎調査(下水道施設)(2,547千円)</p> <p>(2) 長寿命化対策(福富浄化センター水処理設備改築工事委託(ほか))(16,903千円)</p> <p>(3) 処理場施設建設(福富浄化センター汚泥脱水設備設置工事委託)(2,400千円)</p> <p>3 災害に強い下水道の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現行の耐震基準に適合していない既存の下水道施設の耐震化を図る。</li> </ul> <p>【資本的支出 0千円】</p> <p>(1) 耐震化対策(福富浄化センター管理汚泥棟耐震補強工事委託)(0千円)</p>	経営分析指標		30年度(決算)	経常収支比率	＝(経常収益/経常費用)×100	98.5%	経費回収率	＝(下水道使用料/汚水処理費(公費負担分を除く))×100	36.0%
経営分析指標		30年度(決算)								
経常収支比率	＝(経常収益/経常費用)×100	98.5%								
経費回収率	＝(下水道使用料/汚水処理費(公費負担分を除く))×100	36.0%								



3 コスト情報

	平成28年度(決算)	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)
収益的収入	181,168 千円	241,041 千円	206,819 千円	223,037 千円
収益的支出(A)	253,976 千円	244,787 千円	210,255 千円	228,662 千円
差引	△ 72,808 千円	△ 3,746 千円	△ 3,436 千円	△ 5,625 千円
当年度純利益(又は純損失)	△ 68,704 千円	△ 3,435 千円	△ 3,156 千円	千円
資本的収入	63,573 千円	57,902 千円	23,185 千円	261,550 千円
資本的支出(B)	63,573 千円	107,451 千円	70,216 千円	312,531 千円
差引	千円	△ 49,549 千円	△ 47,031 千円	△ 50,981 千円
人件費合計	1.00 人	1.00 人	1.00 人	- 人
うち 人件費 内 正規職員	1.00 人	1.00 人	1.00 人	- 人
嘱託職員	- 人	- 人	- 人	- 人
総事業費(A)+(B)	317,549 千円	352,238 千円	280,471 千円	- 千円
人件費/総事業費	2.84 %	3.24 %	3.77 %	- %
H30年度予算のうち R1年度に繰越した 事業費	【委託料】福富浄化センターの建設工事委託に関する協定(脱水設備設置)ほか2件			140,182,000 円

4 指標

		事務事業番号	305 - 4	事務事業名	特定環境保全公共下水道事業		
活動・結果 指標	【活動・結果指標名】	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)		
	普及促進活動対象戸数	戸	44	36	127		
単 位 当 た り コ ス ト (人件費を含む事業費/ 対象・活動指標)	使用料単価(※H28類型平均113.61 (使用料収入/年間有収水量))	円/m3	172.87	190.65	180.75		
	汚水処理原価(維持管理費)※H28類型平均176.54 (汚水処理費(維持管理費)/年間有収水量)	円/m3	559.31	563.45	502.51		
成果目標 (指標設定理由、 計算式、 数値上では現れ にくい成果)	普及促進活動の直接的な成果である新規下水道接続戸数を指標とする。						
成果指標 (目標達成状況等)	【成果指標名】	単位	28年度 (実績値)	29年度 (実績値)	30年度 (実績値)	元年度 (目標値)	一年度 (目標値)
	新規接続戸数	戸	6	5	10	6	60.0%

5 事務事業の評価

評価分析	普及をより一層促進するため、127戸の未接続者を対象に個別訪問を実施したが、高齢化や経済的負担等を理由に接続の意思が弱く、新規接続は6戸に留まり目標をやや下回った。				
総合評価	C	普及促進が高齢化や人口減少等の社会情勢の変化により困難な状況にある中で、直接訪問による普及活動を行ったが、新規接続が目標値をやや下回る結果となった。 なお、経営面では経常収支比率及び経費回収率が、いずれも100%を下回ることから、より一層維持管理費の縮減など経営改善を図る必要がある。	成果の達成度	A 目標以上	
				B 概ね目標達成	
				C 目標をやや下回る	○
				D 目標を大幅に下回る	
				E 成果が上がらず	
				区分	削減 同じ 増額 コスト投入状況

区分	評価項目	評 価	判断理由・評価コメント
必要性	市の関与の妥当性	市が実施すべきである。	特定環境保全公共下水道は、市が実施すべき事業である。
	市民ニーズの傾向	あまり変化はない。	高齢化、人口減少等の影響を受け普及が低迷している。
有効性	類似事業の有無	類似した事務事業がある。	東広島市汚水適正処理構想に基づき事業を実施している。
	単位当たりコストの妥当性	他の自治体と比較し、単位当たりコストが高い。	経営分析における類型平均と比較して汚水処理原価(維持管理費)が高い。
効率性	コスト削減の余地	一部、削減の余地がある。	汚水処理施設の維持管理費の削減に努める必要がある。
	負担割合の適正度	概ね適正な負担割合である。	経営分析における類型平均と比較して使用料単価は概ね適正である。
	民間活力の活用	概ね、民間委託等へ切替済	汚水処理施設の維持管理費等については、民間委託している。
施策への貢献度	今後も最も重要であり、高い貢献度を持つと判断される。	市民生活環境の改善、公共用水域の水質保全を図るための重要な事業である。	

6 課題及び今後の方向性



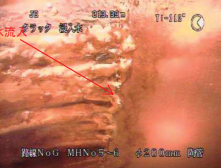
課 題	経営分析において、汚水処理原価(維持管理費)が類型団体と比較して高い状況にあり、下水道サービスを持続的・安定的に供給していくため、維持管理費の縮減を図る必要がある。また、未接続に対する普及をより一層、促進する必要がある。
今後の方向性	下水道サービスの持続的・安定的な提供に向けて、維持管理費の縮減に努めるとともに普及促進を図り経営基盤を強化していく。

平成 30 年度 事務事業シート ( 評価 )

1 事務事業に関する基本情報

事務事業番号	305 - 5	新規・継続	継続
事務事業名	農業集落排水事業	下水道事業会計	混在
所 属	下水道管理課・下水道施設課	総合計画施策体系	3 - 5
根拠法令	浄化槽法、東広島市農業集落排水処理施設の設置及び管理に関する条例 東広島市水洗便所改造資金貸付条例		

2 事務事業の概要・活動実績

目的 (何のために)	農業振興地域における生活排水を処理し、農業用排水の水質保全、農業用排水施設の機能維持および農村生活環境の改善を図る。						
対象 (誰・何を対象に)	農業集落排水処理区域内の住民等 志和堀地区、板城地区、保田地区、大内原地区						
事業の概要 及び H30活動実績	<p>1 下水道経営の健全化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>下水道事業経営戦略により計画的な経営基盤の強化と財政マネジメントの向上を図る。</li> </ul> <table border="1"> <tr> <th>経営分析指標</th> <th>30年度(決算)</th> </tr> <tr> <td>経常収支比率 = (経常収益/経常費用) × 100</td> <td>98.7%</td> </tr> <tr> <td>経費回収率 = (下水道使用料/汚水処理費(公費負担分を除く)) × 100</td> <td>53.7%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>処理場、マンホールポンプ等の適正な運転・維持管理を行うとともに、維持管理費の抑制を図る。</li> <li>使用料等の効率的な賦課徴収事務と早期の滞納整理により、収納率の向上を図る。</li> <li>排水設備工事に係る事務を行うとともに、農業集落排水の普及促進を図る。</li> </ul> <p>【収益的支出 84,741千円】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>処理場管理(75,485千円)</li> <li>管渠・ポンプ場管理(7,212千円)</li> <li>使用料徴収事務委託(2,044千円)</li> </ol> <p>【資本的支出 600千円】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>水洗便所改造資金貸付金(600千円)</li> </ol> <p>2 計画的、効率的な施設の建設と更新</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ストックマネジメント計画に基づき下水道施設の健全化を図る。</li> </ul> <p>【資本的支出 22,600千円】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>農業集落排水処理施設機能診断及び最適整備構想策定(志和堀・板城地区)(15,660千円)</li> <li>板城農業集落排水管渠更生実施設計業務(4,850千円)</li> <li>大内原ポンプ代替工事(2,090千円)</li> </ol>	経営分析指標	30年度(決算)	経常収支比率 = (経常収益/経常費用) × 100	98.7%	経費回収率 = (下水道使用料/汚水処理費(公費負担分を除く)) × 100	53.7%
経営分析指標	30年度(決算)						
経常収支比率 = (経常収益/経常費用) × 100	98.7%						
経費回収率 = (下水道使用料/汚水処理費(公費負担分を除く)) × 100	53.7%						
	<p>板城地区農業集落排水処理施設 処理能力519m<sup>3</sup>/日最大 平成14年4月供用開始</p> <p>板城農集の陶管クラック状況</p>   						

3 コスト情報

	平成28年度(決算)	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)
収益的収入	181,921千円	248,274千円	225,719千円	225,601千円
収益的支出(A)	241,915千円	252,640千円	228,937千円	229,891千円
差引	△ 59,994千円	△ 4,366千円	△ 3,218千円	△ 4,290千円
当年度純利益(又は純損失)	△ 57,111千円	△ 3,414千円	△ 2,990千円	△ 2,990千円
資本的収入	65,693千円	13,624千円	52,469千円	99,124千円
資本的支出(B)	65,693千円	66,350千円	100,792千円	147,136千円
差引	千円	△ 52,726千円	△ 48,323千円	△ 48,012千円
人件費合計	1.00人	1.00人	1.00人	-人
人件費	1.00人	4,836千円	1.00人	5,053千円
正規職員	-人	-人	1.00人	5,454千円
嘱託職員	-人	-人	-人	-千円
総事業費(A)+(B)	307,608千円	318,990千円	329,729千円	-千円
人件費/総事業費	1.57%	1.58%	1.65%	-%
H30年度予算のうちR1年度に繰越した事業費	【委託料】板城地区農業集落排水管渠更生等詳細設計業務(その2)			13,340,000円

4 指標

	事務事業番号	305 - 5	事務事業名	農業集落排水事業			
活動・結果指標	【活動・結果指標名】	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)		
	普及促進活動対象戸数	戸	30	54	0		
単当たりコスト (人件費を含む事業費/対象・活動指標)	使用料単価(使用料収入/年間有収水量)	円/m <sup>3</sup>	214.56	218.74	219.14		
	汚水処理原価(維持管理費/汚水処理費(維持管理費)/年間有収水量)	円/m <sup>3</sup>	405.29	514.71	408.12		
成果目標 (指標設定理由、計算式、数値上では現れにくい成果)	普及促進活動の直接的な成果である新規接続戸数を指標とした。						
成果指標 (目標達成状況等)	【成果指標名】	単位	28年度(実績値)	29年度(実績値)	30年度(実績値)	元年度(目標値)	一年度(目標値)
	新規接続戸数	戸	11	12	10	4	40.0%

5 事務事業の評価

評価分析	他地区の未接続者を対象とした個別訪問を優先したため、農業集落排水の普及促進活動は0戸となり、新規接続は4戸に留まり目標をやや下回った。				
総合評価	C	直接訪問による普及活動を行うことができず、また高齢化や人口減少等の社会情勢の変化により困難な状況にある中、新規接続が目標値をやや下回る結果となった。 なお、経営面では経常収支比率及び経費回収率が、いずれも100%を下回っていることから、より一層維持管理費の縮減など経営改善を図る必要がある。	成果の達成度	A 目標以上	
				B 概ね目標達成	
				C 目標をやや下回る	○
				D 目標を大幅に下回る	
				E 成果が上がらず	
				区分	削減 同じ 増額
					コスト投入状況

区分	評価項目	評価	判断理由・評価コメント
必要性	市の関与の妥当性	市が実施すべきである。	農業集落排水事業は、市が実施すべき事業である。
	市民ニーズの傾向	あまり変化はない。	高齢化、人口減少等の影響を受け普及が低迷している。
有効性	類似事業の有無	類似した事務事業がある。	東広島市汚水適正処理構想に基づき実施している。
	単当たりコストの妥当性	他の自治体と比較し、単当たりコストが高い。	経営分析における類型平均と比較して汚水処理原価(維持管理費)が高い。
効率性	コスト削減の余地	一部、削減の余地がある。	汚水処理施設の維持管理費の削減に努める必要がある。
	負担割合の適正度	概ね適正な負担割合である。	経営分析における類型平均と比較して使用料単価は概ね適正である。
	民間活力の活用	概ね、民間委託等へ切替済	汚水処理施設の維持管理等については、民間委託している。
施策への貢献度	今後最も重要であり、高い貢献度を持つと判断される。		市民の生活環境改善、公共用水域の水質保全を図るための重要な事業である。

6 課題及び今後の方向性

課題	経営分析において、汚水処理原価(維持管理費)が類型団体と比較して高い状況にあり、下水道サービスを持続的・安定的に提供していくため、維持管理費の縮減を図る必要がある。また、未接続に対する普及をより一層、促進する必要がある。
今後の方向性	下水道サービスの持続的・安定的な提供に向けて、不明水対策をはじめとする維持管理費の縮減に努めるとともに普及促進を図り経営基盤を強化していく。

# 【簡易版】平成 30 年度 事務事業シート ( 評価 )

## 1 事務事業に関する基本情報

		事務事業番号	305 - 6	新規・継続	継続
事務事業名	産業団地汚水処理施設事業	下水道事業会計			ソフト
所 属	下水道管理課・下水道施設課	総合計画施策体系	3 - 5		
根拠法令	浄化槽法、東広島市産業団地汚水処理施設設置及び管理条例				

## 2 事務事業の概要・活動実績・課題及び今後の方向性

目的 (何のために)	産業団地の汚水処理施設の適正な維持管理を行い、公共用水域の水質保全を図る。
対 象 (誰・何を対象に)	市が管理する産業団地の汚水処理施設(原地区、志和流通、黒瀬地区)
事業の概要 及び H30活動実績	<p><b>下水道経営の健全化</b></p> <p>・産業団地汚水処理施設の適正な運転・維持管理を行うとともに、維持管理費の抑制を図る。</p> <p><b>【収益的支出 20,031千円】</b></p> <p>産業団地の汚水処理施設の使用料の徴収事務、及び適正な運転管理・維持修繕を行った。</p> <p>(1) 原地区工業団地汚水処理施設管理(2,059千円) 処理開始:H2年12月 処理水量(日平均):2m3/日 管路延長:0.6km</p> <p>(2) 志和流通団地汚水処理施設管理(11,368千円) 処理開始:H9年2月 処理水量(日平均):35m3/日 管路延長:6.2km</p> <p>(3) 黒瀬地区工業団地汚水処理施設管理(6,527千円) 処理開始:H7年4月 処理水量(日平均):36m3/日 管路延長:1.9km</p> <p>(4) 使用料徴収事務委託(77千円)</p>
課題及び 今後の方向性	<p>今後は設備の老朽化が進行するため、適切な維持管理と計画的な施設更新または処理水量に応じた処理施設の最適化を進めていく。</p>

## 3 コスト情報

		平成28年度(決算)		平成29年度(決算)		平成30年度(決算)		令和元年度(予算)	
収益的収入		81,360 千円		45,670 千円		44,145 千円		61,396 千円	
収益的支出(A)		81,360 千円		45,546 千円		44,217 千円		61,396 千円	
差引		千円		124 千円		△ 72 千円		千円	
当年度純利益(又は純損失)		326 千円		△ 235 千円		△ 77 千円		1,764 千円	
資本的収入		- 千円		- 千円		- 千円		5,000 千円	
資本的支出(B)		- 千円		- 千円		- 千円		5,000 千円	
差引		- 千円		- 千円		- 千円		千円	
うち 人件費	人件費合計	1.00 人		1.00 人		1.00 人		-	人
	正規職員	1.00 人	3,360 千円	1.00 人	4,856 千円	1.00 人	5,292 千円	-	人
	嘱託職員	-		-		-		-	人
総事業費(A)+(B)		81,360 千円		45,546 千円		44,217 千円		-	
人件費/総事業費		4.13 %		10.66 %		11.97 %		-	
H30年度予算のうち R1年度に繰越した 事業費								-	